

本願文 第13願 2025/08/26gotonote

願名 寿命無量の願

願文 設我得仏 寿命有能限量、下至百千億那由多劫者、不取正覺。

梵本 (15) もしも、世尊よ、わたくしが覺りを得たときに、たとえ十万・百万・千万劫の数をもってしても、[わたくしの] 寿命の量が限界に達するものとなるようであるならば、その間は、わたくしは無上なる正等覺をさとりません。

現代語訳 もし、わたしが仏になれるとしても、わたしの寿命に限りがあつて、数限りのない時間に及ばないようになら、わたしは誓つてさとりを開きません。(尾畑 P51)

成就文 仏阿難に語りたまわく、「無量壽仏は、寿命長久にして勝計すべからず。汝むしろ知らんや。たとい十方世界に無量の衆生、みな人身を得て、ことごとく声聞・縁覺を成就せしめて、すべて共に集会して、思いを禪らにし、心を一つにして、その智力を竭して、百千万劫において、ことごとく共に推參して、その寿命の長遠の数を計えんに、窮尽してその限極を知ることをあたわじ」と。抄出 (真聖 P301)

<語注>

- ・「寿命」 寿命無量は寿命に限量のない如来の御いのちであつて、寿命無量は涅槃常住の内徳である。光明無量をもって如来の智慧を表し寿命無量をもって如来の慈悲を表すことがいわれている。すなわち、寿命の無量は、永遠に生きとし生けるものの生死の悩みに大悲同感し、同体の大悲をもって三世を貫き、内に迷える衆生の宿業を負うて衆生と運命を共同したまう大慈悲の御いのちである。(松原 P189)

<視点>

- ・「いのちは深さ」
(光と名は広がり) それに対して。13願、「いのち」は、これはある意味で深さであります。劫ですから、いのちが持っている歴史の深さであります。(宮城大経 24P57)
- ・「いのちは豊かさ」
寿命無量というのは、ただ時間的にかぎりなくということではない。いのちがいのちとしての豊かさをもって生きるということでもあります。(〃 P77)
- ・「命中夭せず」
無量壽が若死にしないという言い方になっている。
世尊我得菩提成正覺已所有衆生令生我刹、命不中夭壽百千那由多劫悉皆令得阿耨多羅三藐三菩提。(『莊嚴經』第11願)
- ・「人生にゴールインはない」
何十年生きようと人生は途中で終わる。途中を生きるしかない。生きているかぎり途中だということは、言い換えれば人生そのものが道になるということです。(〃 P80)
- ・「いのちの目覚め」
歴史を生きるいのちの目覚めを「今日」という。「人生の全体が今にある。つねにそういう今として受けとめられる。」(〃 P81)